

自己評価報告書

平成23年5月25日現在

機関番号：11302

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720166

研究課題名（和文） 近世武家社会における名前に関する基礎的研究

研究課題名（英文） The Fundamental Research on Samurai Names in the Early Modern Period

研究代表者

堀田 幸義 (HOTTA YUKIYOSHI)

宮城教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20436182

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史、武家、名前

1. 研究計画の概要

筆者は、これまで仙台藩伊達家を主たる対象に3つの観点から名前研究を進めてきた。第一に、同藩における禁字法令の創出過程とその歴史的背景を探ることで藩主家と家臣団との関係について考察した研究、第二に、身分・階層と名前との関係性について官途・受領名をめぐる問題から迫った研究、第三に、武家の家内秩序と呼び名との関係についての研究である。

本研究では、こうした法による人名統制という問題を単なる個別藩レベルに止まらない近世社会全体の特質として描き出すため、仙台藩に見られるような名前をめぐる諸法令の存在を全国規模で確認しその概要把握を行うとともに（課題①）、より多くの大名家等について個別具体的な検討を行うことを最終的な課題（課題②）として研究を進めてきた。

2. 研究の進捗状況

本研究開始当初から、まずは課題①をクリアすることを目標に作業を進めており、過去3年間の研究も、もっぱら各藩や幕府などが実施した名前規制の有無とその概要把握に努めるものとなった。具体的には、日本列島を「北海道・東北」／「関東」／「北陸・甲信越」／「東海」／「近畿」／「中国・四国」／「九州・沖縄」の計7つの地域に分け、各自治体史の資料編に収められている近世史料や刊行されている法令集・正史などから名

前関係記事を抜き出し、それを分類・整理する作業を行ってきた。

現在までに、86の藩領、12の幕府領、5の旗本領について調査したが、その結果、先に挙げた3つの研究テーマである、禁字法令をめぐる問題、官途・受領名をめぐる問題、呼称をめぐる問題それぞれについて、多くの関連史料を発見することができた。また、日本人の名前文化の地域性を浮き彫りにできるような史料についても見つけることができ、自らの論を深めることができるのではないかと期待しているところである。ただし、これまでに目を通した自治体史等の刊行資料集では、掲載されている史料の数や種類・内容に藩ごと地域ごとのばらつきが見られ、7つのブロック全てについて十分な調査を終えているとは言い難い状況でもある。

また、課題②については、名前政策に関する史料が比較的豊富に残っておりその様子を復元できるような藩をいくつか見つけ、ある藩については藩士の系図を基に人名データベースの作成を試みているが、未だ個別具体的な分析作業に入る段階には至っておらず、日々基礎資料作りに励んでいるところである。

3. 現在までの達成度

現在までの達成度については、予定よりやや遅れているというのが正直なところである。これまでの研究を通して、禁字法令については、全国各地34の藩でその存在を確認し、具体的内容についても掘り起こすことが

でき、官途・受領名をめぐる問題については、近世前期の仙台藩で見られたような人名をめぐる兵農未分離の状況が東北地方各地で見られ、畿内近国などの地域ではそれとは異なる様相を呈していたであろうことが判明し、呼称をめぐる問題については、仙台藩伊達家同様の呼称規定を設けている藩が全国各地に存在することを突き止めるなど、一定の成果を上げてはいるものの、遅くとも研究開始3年目までには課題①をクリアできるような状態へ持って行くつもりでいたことを考えれば、作業が遅れていると言わざるを得ない。

全国規模での事例確認・概要把握(課題①)と特定の藩を対象とした個別具体的な検討(課題②)という二つの課題をクリアするために多くの時間を要すことは最初から予想されたことであったが、実際、研究に着手してみると、時間的ロスを省くために利用した自治体史の中に禁字法令等を載せるまとまった形で法令集そのものが見当たらない藩も多く、また、各地域の様子を網羅することに固執するあまり次の地域になかなか移れず、前述した7つの地域のうち1つの地域について調査するだけでも時間がかかってしまったことが遅延の原因である。

4. 今後の研究の推進方策

以上のように、現段階では、課題①・②ともに中途半端な状態であり、研究の成果をまとめた形で公表するためには、一応の区切りがつけられるレベルまで作業を終えることが必要となってくる。少なくとも課題①については研究成果をまとめ上げられるように、今後も全国各地の概要把握を継続していくつもりであるが、時間的に厳しい場合には、既に調査が済んでいる藩を中心に成果を論文文化していきたいと思っている。取り上げるテーマについても、禁字法令をめぐる問題、官途・受領名をめぐる問題、呼称をめぐる問題の3つ全てを論じるのではなく、どれかに絞った形で全国的な状況をまとめることも考えている。

課題②については、個別藩の状況を深く掘り下げる作業にどれほど時間を割けるか不安が残るものの、2007年に発表した拙著において既に名前政策の概要を把握している藩もあることから、その中で史料的に恵まれている藩を重点的に調査することも可能であろうし、本研究を進める中で名前政策に関する史料が多く出てきた藩について取り上げることのできるのではないかと思われる。ただし、個別具体的な分析に入る前に準備しておかねばならない基礎データ、特に、人名に

関するデータベースは一つの藩について用意するだけでも大変な作業なので、簡単には進まないことも予想され、基礎資料作りにあまり時間をかけすぎると、結果として何の成果も上げられないという事態に陥ってしまうことも考えられることから、当面は課題①のクリアに全力を挙げていくつもりである。もちろん個別藩に関して論文化できるものは積極的に発表していきたいと思っている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

①堀田幸義、「武士の嗜み、武士の威厳」、安達宏昭・河西晃祐編『講座 東北の歴史』、第1巻、清文堂出版、近刊、査読なし

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕